




浄水発生土を用土として上手に利用する

浄水発生土とは、河川の水から水道水をつくる過程で泥等が沈んでできたものです。普通の土との見分けはつきませんが、肥料として必要なリン酸を吸着してしまう性質があります。

用土として利用するためには、通常の栽培よりも多くのりん酸質肥料を施用する必要があります。また、マンガンが多く含まれていることがあるため、土の pH が低い場合には植物が過剰に吸収してしまい、生育が劣ることがあります。この対策として、浄水発生土にケイカル（ケイ酸カルシウム）と土を混合し、湿った状態で1カ月以上保った後に利用するようにします。

混合量 少  多



生育低下の主な原因

- ①リン酸の不足
- ②マンガンの過剰供給

浄水発生土 土と混ぜただけでは混合量が増すと生育量が低下（コマツナ栽培）

そこで、対策として次の方法を実施します

ケイカルを添加

土と混ぜて積み重ねる

りん酸質肥料を添加

具体的には・・・浄水発生土に土とケイカルをよく混ぜます
水を加えて1カ月以上積み重ね、ときどき混ぜ直します
利用前にりん酸質肥料を加えます

(注釈) 浄水発生土の量に応じてケイカル、りん酸質肥料の添加量は変わります

↓ 対策実施後



土だけで栽培



土だけの栽培より生育良好

さらにこんな効果も！

肥料分（窒素）が供給され
生育量が増加

土が締まりにくいため
通気性・排水性が良くなる